

沖縄の伝統料理と食文化

－若い世代における継承の現状と課題－

小野 心寧

沖縄県の食文化は地理的特性や歴史的過程を経て形成された独特なものであり、将来にわたって保存、普及、継承されるべき大切な文化として位置付けられている。しかし、食文化を支える人材の高齢化、年中行事の簡略化による行事食の衰退、若い世代を中心とした伝統料理離れ等により、伝統的な食文化が失われつつあり、継承が困難になってきている。

本論文では、沖縄の伝統料理や食文化の歴史や特徴を整理したうえで、継承の現状や課題について明らかにすることを目的とした。研究方法は文献・資料・インターネットを用いた調査に加え、関係者へのインタビュー調査を行った。

その結果、若い世代における伝統料理離れをはじめ、核家族化や共働き世帯の増加、ライフスタイルの変化による家庭内継承の困難さ、行事や行事食の衰退、食文化を支える人材の高齢化、さらに食生活の欧米化による健康面への影響など、複数の要因が相互に関係しながら継承を困難にしている現状が明らかになった。

また、インタビューを通して、webサイトでのレシピ動画の公開や、SNSを活用した継続的な情報発信、調理実習などを通して伝統料理を体験する機会を設けること、伝統料理を伝える人材を育成すること、さらにはイベント等の活動を通して伝統料理を多角的に学び、整理し、その成果を広く発信することが、沖縄の伝統料理を食文化の継承に繋がっていくことが分かった。

若い世代に伝統料理や食文化に興味を持ってもらうには、伝統料理に関するかるたやクイズなど、ゲーム感覚で伝統料理を学べるようにするのが良いと考える。伝統料理や食文化の継承は、子どもの頃から伝統料理に親しまないと受け継がれていかないと考えるため、子どもの頃から楽しみながら継承できるものを考える必要がある。また、沖縄の伝統料理や食文化に関する検定を作ることは、次世代の担い手育成にも繋がる継承の仕組みとして有効であると考えられる。